

平成17年度 子どもの読書活動推進事業

# いわて子ども読書プラン 実践事例集



岩手県教育委員会

## 発刊のことば

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするなど、人生をより深く生きるための力を身に付けるうえで欠くことができないものです。

県教育委員会では、平成16年3月に、岩手県子どもの読書活動推進計画「いわて子ども読書プラン」を策定しました。本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月法律第154号）、ならびに「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成14年8月策定）を踏まえ、子どもたちが読書の魅力を感じながら主体的に読書活動に取り組むことのできる環境づくりを進めるための総合的な施策として策定したものであります。

これに基づき、県教育委員会では、子どもの読書活動に関する普及・奨励活動に取り組んでいます。

この取り組みの一つとして、今年度は、県内各地のさまざまな取り組み事例の紹介と普及のため、「いわて子ども読書プラン実践事例集」を発刊することとしました。

作成にあたりましては、県内各市町村教育委員会、公立図書館、小中学校、各地域の皆様から貴重な資料、情報をお寄せいただき、プランを構成する各分野ごとの特色ある取り組みを掲載させていただきました。

子どもの読書活動がより一層推進されるよう、本事例集をご活用いただければ幸いです。

おわりに、作成にあたりご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

平成18年3月

岩手県教育委員会教育長 照井 崇

# 県内各地の読書活動



# 目次

---

## 発刊のことば

|      |   |    |
|------|---|----|
|      | 『いわて子ども読書プラン』の概要  | 2  |
| 事例1  | 家庭における読書活動の推進事例①<br>ブックスタート事業（奥州市衣川区）                           | 4  |
| 事例2  | 家庭における読書活動の推進事例②<br>絵本のメリーゴーランド（一関市立油島小学校PTA）                   | 6  |
| 事例3  | 地域における読書活動の推進事例①<br>「おはなし会」の実践<br>（陸前高田市・読書ボランティアグループ「おはなしペパン」） | 8  |
| 事例4  | 地域における読書活動の推進事例②<br>広域のネットワークを生かした読み聞かせ<br>（一戸町・県北読み聞かせキャラバン）   | 10 |
| 事例5  | 学校等における読書活動の推進事例①<br>本を読む習慣を作りあげた朝読書（盛岡市立城東中学校）                 | 12 |
| 事例6  | 学校等における読書活動の推進事例②<br>学校と地域が一体となった読書活動の推進（奥州市立前沢小学校）             | 14 |
| 事例7  | 公立図書館の整備・充実事例<br>図書館に負けない公民館図書室を（葛巻町公民館）                        | 16 |
| 事例8  | 学校図書館等の整備・充実事例<br>読書意欲を高める図書館活用（一関市立長坂小学校）                      | 18 |
| 事例9  | 公立図書館と学校等との連携事例<br>学校読書活動に対する支援（花巻市立石鳥谷図書館）                     | 20 |
| 事例10 | 推進体制の整備事例<br>ホントに楽しい読書のススメ事業<br>（宮古読み聞かせの会「ぞうさんのミミ」）            | 22 |
| 事例11 | 市町村子どもの読書活動推進計画策定事例<br>花巻市子ども読書活動推進計画（花巻市教育委員会）                 | 24 |
| 事例12 | 子どもの読書活動に関する普及・奨励事例<br>北上地区子どもの読書活動推進事業（北上教育事務所）                | 26 |
|      | 計画の進行状況を示す指標の動向について   | 28 |

# 読書で豊かな心を

## 岩手県子どもの読書活動推進計画

# 「いわて子ども読書プラン」 平成16年3月策定

## 概要

読書は、子どもたちに豊かな感性や情操、そして思いやりの心をはぐくむ大切な営みです。すべての子どもたちが、すてきな本と出会い、読書に親しむことで、心豊かに成長することを願い、岩手県子どもの読書活動推進計画「いわて子ども読書プラン」を策定しました。

### 本プランは

- 子どもたちが、いつでもどこでも本に親しめるような環境づくりを進めるための計画です。
- 家庭、地域、学校及び行政のそれぞれが担う役割を示しました。
- 平成19年度までの具体的な取り組み内容と目標（値）を掲げました。

### <特色>

- (1) 「子どもが本に親しむ環境づくり」「家庭、地域、学校及び行政が連携・協力した取り組みの推進」「子どもの読書活動に関する普及・奨励」の3つを推進の柱としました。
- (2) 「県の施策の方向」と「市町村に期待すること」を示し、県と市町村の役割分担の明確化に努めました。
- (3) 「家庭で本に親しむ日」(仮称)の設定など、家庭におけるより具体的で積極的な取り組みにふれています。
- (4) 各教育事務所が中心となり、地域の特色を生かした推進や体制整備に努めることとしました。
- (5) 計画の進行状況を示す指標を設定しました。

### 本プランのもとに

#### 家庭では

- 幼児期からの読み聞かせに努めましょう。
- 読書の日や時間を決めるなど、家族みんなで読書に親しみましょう。

#### 地域では

- 図書館等による魅力ある児童サービスの充実を図ります。
- 読書ボランティアや教育振興運動による魅力的で継続的な活動の展開を支援します。

#### 学校では

- 読書タイムの実施や学校図書館の一層の活用を進めます。
- 児童生徒の図書の実用性に努めます。

# プランの推進のための取り組み及び掲載事例について



※ 複数の内容を含む事例もありますが、最も代表的な取り組みをもって位置付けました。  
 ※ 教育事務所の取り組みの中には市町村の取り組みを含んでいる事例もあります。  
 ※ 市町村名等は平成18年3月時点のもですが、実際の取り組み内容には市町村合併前のものが含まれるため、文中には旧市町村名が含まれることもあります。

# 「ブックスタート事業」

～赤ちゃんと一緒にあたたかなひとときを～

奥州市衣川区

連絡先：奥州市衣川総合支所健康福祉課 〒029-4332 奥州市衣川区古戸52-1 TEL 0197-52-3800

## 【概要】

活動開始年度：平成15年度

事業実施主体：奥州市衣川総合支所健康福祉課

奥州市教育委員会衣川総合支所生涯学習課

主な対象者：該当月の健診を受診する乳児と保護者

主な活動場所：奥州市衣川保健福祉センター

## ★主な活動内容

- 1 4ヶ月児と保護者へのブックスタートパックの贈呈
- 2 未受診者への家庭訪問による贈呈
- 3 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会の実施
- 4 絵本を自由に閲覧できるブックスタートコーナー
- 5 パンフレット等による絵本の紹介、公民館図書室の利用
- 6 読み聞かせボランティアの育成と活動支援

## 1 背景及び現状認識

近年、親子関係の希薄化に起因すると思われる少年犯罪や児童虐待等が多発し、大きな社会問題となっている。

乳・幼児期の子どもとのスキンシップを通じたふれあいの機会は、思いやりあふれる心豊かな人間を育成するためにはなくてはならない大切な時間である。

「抱っこをしながら絵本を開いてお話をする」ことは、子どもとのコミュニケーションの機会を広げ、親子の絆を一層深めるための簡単で日常的な方法の1つである。

## 2 課題

(1) 現代の社会環境の下では、親子が日常的に接触する場面が減少し、いわゆる「心のふれあい」の機会を持ってない家庭が増えてきている。

そこで、「絵本」を媒体とし、スキンシップを通じながら進めることのできる親子のふれあい活動の有効性を広めるとともに、その環境整備を進めていくことが望まれる。

(2) 絵本による日常的なふれあいの促進のためには、子どもへのお話の仕方、絵本の活用の仕方、絵本の選び方等の具体的な手段や方法の理解が不可欠である。

そのため、それぞれの子どもの発達段階に適した絵本の贈呈や紹介、読み聞かせ実践のための活動(学習)機会の提供、そして、指導者や支援者(ボランティア)の育成を進めていく必要がある。



健診時におけるブックスタートパックの贈呈

## 3 目的

絵本を通して、赤ちゃんと保護者が向かい合い、「温かくて楽しい言葉と気持ちの通い合いのひととき」を持つことの意義を広め、「親子のふれあいの時間」の機会確保のための様々な支援を行う。

- (1) 地域団体や関連機関との連携を進め、協力を得ながら子育て支援に関する情報提供を行い、学習活動や保護者の相互交流の機会を提供する。
- (2) 絵本を直接手渡すことによって、本に対する動機付けを進め、子どもや保護者が読書を生活の一部として認識し、生涯学習の素地を創出する機会とする。

## 4 事業内容

- (1) ブックスタートパックの贈呈

4ヶ月児とその保護者に、絵本や読み聞かせアドバイス集等の入った「ブックスタートバック」をプレゼントし、絵本を通じた子どもとのコミュニケーションの機会のきっかけづくりを行う。

なお、本バックは健診未受診者に対しても、次回健診や家庭訪問の際にメッセージを添えて手渡す。

#### 贈呈する「ブックスタートバック」の内容

- ① 布製バック
- ② 絵本『たまごのあかちゃん』（4ヶ月児用）  
絵本『がたんごとん がたんごとん』（10ヶ月児用）
- ③ 保護者用パンフレット  
「あかちゃんのすきなものしてる？」
- ④ リーフレット「衣川の子育て応援団」  
リーフレット「おすすめえほんの紹介」
- ⑤ セミナーハウス「図書室利用案内」

#### (2) ボランティア等による「読み聞かせ会」の実施

定期健診等の機会を活用し、ボランティアによる「読み聞かせ」やおすすめ絵本の紹介を行う。

実施にあたっては、担当職員と保健師、ボランティアによる綿密な事前打ち合わせを行い、役割分担を明確にするとともに、受診者に対しても実施内容等を詳細に説明し、円滑な事業の推進が図られるよう配慮している。

#### (3) ブックスタートコーナー等の設置

保健福祉センター内に、幼児向け絵本を自由に閲覧できるブックスタートコーナーを設置している。貸し出しや「おすすめ絵本」の紹介に加え、セミナーハウス図書室の利用のための案内も同時に行いながら、子どもたちが大きくなっても親子で図書を利用するための啓発に努めている。

#### (4) 活動を支える支援機能の充実

ブックスタート事業の成否は、その活動を直接支援するボランティアスタッフの存在にかかっている。そうした支援機能の充実のため、当センターでは、支援ボランティアグループ「すくすく」(会員10名)を立ち上げるとともに、センターで行われる母子保健関連事業の理解と会員の資質向上・相互交流を目的とした定期的な学習会を開催している。

## 5 成果

### (1) アンケートの結果、ほとんどの母親が、「子どもと楽

しい時間を過ごすきっかけになりそう」あるいは「親子のコミュニケーションが豊かになった」と回答しており、絵本を通じての親子のふれあいの機会の大切さを、まさに肌を通して理解いただいている。

(2) ブックスタート事業を根本から支える「ボランティアスタッフ」の活動は、当センターの母子健康事業以外の場面でも進められている。セミナーハウスや各幼稚園・小学校、各地区等でも「読み聞かせ会」や「手づくり絵本教室」が開催され、「お話の輪」がどんどん広がっている状況である。

「子どもの読書活動の推進」というテーマのもと、ボランティアを介して、教育委員会や関連機関等との連携が円滑に進められるための基盤づくりを進めることができたことも大きな成果の1つである。

## 6 今後の展望

少子高齢化の進行に伴ない、本区の子どもの出生数も年々減少の一途だが、こうした現状だからこそ、子どもたちの健やかな成長を念頭においた事業の推進を重点施策ととらえ、多くの住民が具体的な形で関わることのできる環境づくりを積極的に進める必要がある。

読書という日常的で身近な営みを地域づくりのキーワードとしながら、本区の宝である人財(材)を最大限に活用した、住民の目の高さでの活動を今後も進めていきたいと考えている。



子どもの成長に最も大切なことは、親子のふれあいです。読書をとおした、身近な取り組みがとても良いと思います。0歳からすべて

の子どもが“読書デビュー”ができ、同時にそれが子育て支援にもなるところが素晴らしいですね。事業を進める関連団体との連携もしっかりなされており、これからも継続と広がりが期待できるものと思われま

す。子どもを抱っこし、絵本を開いてお話をする——そのからだのぬくもりと、良い本との出会いは、子どもが心豊かに成長するための大きな役割を果たすことでしょう。

岩手県子どもの読書活動推進委員

小野寺 明美



# 「絵本のメリーゴーランド」

～ 絵本を巡回し家庭で親子の読み聞かせを～

一関市立油島小学校PTA

連絡先：一関市立油島小学校 〒029-3207 一関市花泉町油島字上築道34-1 TEL 0191-82-5326

## 【概要】

活動開始年度：平成16年度  
事業実施主体：一関市立油島小学校PTA  
主な対象者：油島小学校全学年の保護者・児童  
主な活動場所：各家庭

## ★主な活動内容

- 1 絵本の選本委員会で学年毎に巡回する絵本を選出
- 2 選出された絵本を各家庭に巡回
- 3 各家庭で週2回以上の読み聞かせ
- 4 各家庭に年間5冊の絵本を巡回
- 5 年度末にアンケートを実施

## 1 背景及び現状認識

一関市花泉町油島地区では、平成16年度の油島地区教育振興運動の目標として「本を読むことが好きな子どもに育てよう」「きちんと挨拶ができる子どもに育てよう」の2つを設定した。このうち、前者を実現させるための具体的な取り組みとして、読書に関する保護者の意識調査を実施して実態を把握し、さらに、教育講演会を開催することによって読書の大切さを再認識するとともに、家庭における具体的な取り組みについて学ぶこととした。

## 2 課題

PTA会員を対象にした意識調査の結果、多くの親が読書の大切さを認識しているにもかかわらず、1ヶ月の読書量が1～2冊、またはほとんど読まないという子どもが6割、親においては7割以上という結果が出た。

このような現状を地域の課題ととらえ、PTA会員を対象とした教育講演会では、読み聞かせの会「ぼけっと」（大船渡市）の富田房江氏を講師に迎え、家庭での読み聞かせの大切さについて研修することができた。その結果を受け、PTA特にも家庭での取り組みとして、親子で無理なく日常的に本に親しむ機会を持つことを目指し、絵本の読み聞かせにチャレンジすることとした。

## 3 目的

家庭での絵本の読み聞かせは、読書習慣のきっかけ

をつくることのみならず、感性や創造力を豊かなものにし、親子のふれあいを深めたりすることができる。また、長い目を見た場合には、学力向上につながるなど、読み聞かせにより様々な効果が期待できる。



読み聞かせの大切さを学んだ講演会

## 4 事業内容

絵本を巡回し、読み聞かせを行うこの取り組みを、絵本が各家庭を巡るイメージから「絵本のメリーゴーランド」と名づけて2年目の取り組みを行っている。

- (1) 各学年PTAより絵本の選本委員を選出し、学年ごとに図書室の本より巡回する絵本を選ぶ。
- (2) 各学年、巡回名簿の順により絵本を1冊各家庭に貸し出す。
- (3) 各家庭では、親などが1週間の間に絵本を2回以上子どもに読み聞かせを行う。昨年度は1週間に3

回の読み聞かせは大変だったとの声を受けて、17年度は回数を減らし文章の短い絵本を選ぶこととした。

- (4) 1週間経過したら、担任の先生に絵本を返す。担任は返却された絵本を次の家庭に回す。
- (5) 年間で、各家庭5冊程度の絵本を巡回する。
- (6) 今年度の取り組みが終わる2月下旬にアンケートを実施し、取り組みについての感想をもとに、次年度の実践に生かす。

## 5 成果

アンケートの結果、各家庭での取り組みについて次のような感想や意見が寄せられた。

- ・仕事から帰ってくると子どもが寝る時間だったり、見たいテレビ番組の時間だったりと思うように時間をとって読んであげられませんでした。でも、このような取り組みはとてもよいし、親がその気で読むと自然と子どもたちも感情表現して読むことができるようになりました。(1年生の保護者)
- ・週3回以上の読み聞かせは慌ただしかったです。でも、読み聞かせをしてあげると、子どもが目をキラキラさせて聞いている様子を見て、うれしく思いました。(3年生の保護者)
- ・中学年になって読み聞かせなんてとっていましたが、絵本を見ながら読み聞かせていると親子のふれあい、感想等の話をするのができ、とてもよかったです。幼児期だけではなく、小学生の子どもや大人でも絵本を読むことで心が温かくなりました。(4年生の保護者)

アンケートでは、とても大変だったという声が13%、少し大変だったという声は40%あった。しかし、楽しく取り組めたという声も47%を占めた。仕事が忙しく読み聞かせができなかったとの反省があるものの、子どもの読書への興味の高まり、親子のふれあいの時間が増えたことなどから、「絵本のメリーゴーランド」の取り組みの継続を望む声が多かった。

## 6 今後の展望

この「絵本のメリーゴーランド」は、各家庭からのアンケートの声を生かし、次の点を検討しながら、今後も継続した取り組みを進めていきたい。

- (1) この取り組みをスタートした平成16年度は、町からの教育振興運動活動補助金を活用し、各学年に2冊の絵本を購入したが、17年度は学校の図書室の本を利用している。今後、現在ある図書資源を有効に活用して取り組んでいく。
- (2) 講師を招いて、絵本の読み聞かせ実演を行い、より効果的な読み聞かせの手法について学習を積み重ねる。



家庭での絵本の読み聞かせ



子どもが小さい頃は、よく読み聞かせをしていた家庭でも、小学校に入ると遠のいてしまうものですが、この事例では、学校の図書を利用

してPTA全体で読み聞かせに取り組んでいる点が素晴らしいと思います。

アンケートの結果にも「少し大変だった」と答えている人が多くいるように、多忙な中で本を読む時間を設けるのは努力のいることですが、休日などに家族で読書の時間を決めるなどして、これからも続けてほしいものです。

また、今後は上級生に絵本の読み聞かせの場を与えて、児童同士のふれあいの機会を持つこともよいと思います。

岩手県子どもの読書活動推進委員

新道 智子

# 「『おはなし会』の実践」

～ お話の種まき ～

読書ボランティアグループ「おはなしペパン」

連絡先：陸前高田市立図書館 〒029-2205 陸前高田市高田町字砂畑61-1 TEL 0192-54-3227

## 【概要】

活動開始年度：平成5年度  
事業実施主体：読書ボランティアグループ  
「おはなしペパン」  
主な対象者：幼児、小・中学生  
主な活動場所：陸前高田市立図書館

## ★主な活動内容

- 1 市立図書館おはなし会（毎月第2・4土曜日）
- 2 出前おはなし会（市内外の学校・保育所等へ出向く）
- 3 市立図書館「おはなしらんど」での公演
- 4 会員研修・勉強会の開催（毎月1回）  
会報発行 138号

## 1 背景及び現状認識

子どもの読書活動推進の気運の高まりを背景に、読み聞かせやおはなし会に対する関心が高まっている。それに伴い、県の読み聞かせキャラバン事業のほか、市内外からのおはなし会の依頼が増え、よりよいおはなし会にするための資質の向上が求められている。

## 2 課題

子どもたちと本とを結びつける担い手として、資質や技能の一層の向上が要求される。

## 3 目的

子どもたちへのストーリーテリング（素話：すばなし）や読み聞かせを通じて、子どもたちとともに読書の喜びを分かち合い、子どもたちの読書を促すことを目的とする。子どもにとって、本を語り聞かせてもらうことや読み聞かせてもらうことも読書の一つである、という考えから、「おはなし会」を通じて子どもたちに本の世界をたっぷり楽しんで味わってもらい、子どもと本をつなぐ役割を担う活動を行う。

## 4 事業内容

読み聞かせは、読み方を工夫したり、環境を整えたりすることに加え、各年齢層に合わせてどのような絵本を選択するかが重要である。以下は、「おはなしペパン」が

実践の中からつくりあげたプログラム及び選書である。

### （1）市立図書館でのおはなし会

市立図書館で毎月第2、第4土曜日の10時半より11時までの間、おはなし会を行う。

#### ○プログラムの一例（幼児と小学校低学年向け）

- ・絵本「やさいのおなか」「ねんね」
- ・お話「腰折れすずめ」
- ・絵本「14ひきのあさごはん」
- ・絵本「よかったねネットくん」

### （2）出前おはなし会

市内外の保育所・小・中学校からの依頼により出前おはなし会を実施する。内容は、ストーリーテリング（素話）と絵本の読み聞かせを中心に、対象年齢に合わせたプログラムを組んで行う。基本的に一人の語り手が一つの集団（クラス）を受け持つ。



クリスマスおはなし会の様子

○ 保育所年長組のプログラムの一例

- ・ 絵本「それはすごいな リっぱだね」
- ・ お話「こすずめのぼうけん」
- ・ 絵本「やさいのおなか」
- ・ 絵本「へんてこへんてこ」
- ・ お話「ギーギードア」

○ 小学校1, 2年のプログラムの一例

- ・ 絵本「やさいのおなか」
- ・ 大型絵本「びょーん」
- ・ 絵本「ろくべえまってるよ」
- ・ お話「おやふこうなあおがえる」
- ・ 絵本「コッケモーモー」
- ・ お話「ギーギードア」

○ 小学校3, 4年のプログラムの一例

- ・ お話「牛方とやまんば」
- ・ 絵本「やさいのおなか」
- ・ お話「ラプンツェル」
- ・ 絵本「よかったね ネットくん」
- ・ 詩 「けむり」(まどみちお)

○ 小学校5, 6年のプログラムの一例

- ・ お話「たまごのカラの酒づくり」
- ・ 絵本「ジローとぼく」
- ・ お話「かしこいグレーテル」
- ・ 絵本「ウシバス」

(3) 「おはなしらんど」でのクリスマスおはなし会の公演

年4回、市立図書館で行なっている「おはなしらんど」のうち、「クリスマスおはなし会」をおはなしボランティアが担当している。

○ 昨年のプログラム

- ・ うた ジングルベル
- ・ 大型絵本「くりとぐらのおきゃくさま」
- ・ エプロンシアター「あかずきんちゃん」
- ・ 大型絵本「おばけのてんぷら」
- ・ ブラックシアター「ピーターパン」
- ・ うた あかはなのトナカイ

(4) 会員研修を行い、研鑽に励む。

毎月1回、子どもの本やストーリーテリング、絵本の読み聞かせ等の勉強会を行い、会報を発行するほか、積極的に外部の研修会へ参加し、学習を深めるよう

心がけている。

## 5 成果

読み聞かせに対する理解の深まりとともに、読み聞かせの活動の場が広がり、地域・学校での「おはなし会」の回数が増えるとともに、内容が充実した。その結果、子どもたちの本に対する関心が高まった。

また、子どもを取り巻く大人たちの理解が深まったことにより、子どもたちの読書環境が充実した。



おはなし会風景 (小学校低学年)

## 6 今後の展望

子どもの読書活動推進については、現在は追い風に恵まれているが、この風に乗りながら、たとえそれが風になったとしても続けていくという活動でありたいし、子どもの心の成長を喜びにできるボランティアでありたいと考えている。



平成5年に活動を始めてから、13年間も続いているエネルギーは実に素晴らしいと思います。「継続は力なり」を実証するものです。成

果と今後の展望にも記されているように、今まさにブームのような状況ですが、なぜ?と考えた時、子どもたちの忙しすぎる生活が浮き彫りになります。この活動がそのような子に潤いを与え、感性・想像力を磨くきっかけになることを期待しています。

岩手県子どもの読書活動推進委員

佐藤 美喜子

# 「広域のネットワークを生かした読み聞かせ」

～子どもと本のかけはしに・県北読み聞かせキャラバン～

県北読み聞かせキャラバン

連絡先：二戸教育事務所 〒028-6103 二戸市石切所字荷渡 52 TEL 0195-23-9210

## 【概要】

活動開始年度：平成16年度  
事業実施主体：県北読み聞かせキャラバン  
17年度代表団体「おはなしボランティア」  
主な対象者：幼児、児童生徒、親子等  
主な活動場所：二戸・久慈教育事務所管内全域

## ★主な活動内容

- 1 読書ボランティアのネットワークづくりと研修
- 2 読書ボランティアによる読み聞かせキャラバン
- 3 学校の読書活動推進の協力者の立ち上げと支援
- 4 読書ボランティアの団体及び活動紹介

## 1 背景及び現状認識

読書離れや活字離れが指摘される中で、地域で読み聞かせのボランティア活動を行うグループが当地区にも増えつつある。公立図書館(室)の整備、学校図書館等の一層の充実が待たれる中、子どもと本を直接つないでくれる読書ボランティアの活動は大変貴重なものとなっている。

しかし、多様な取り組みを積極的に行っている読書ボランティアグループがあるものの、個々ではPRが難しく、その活動があまり知られていないことが多い。

また、読書ボランティアグループがない地域が多いため、子どもが実際に参加する機会はまだまだ少ない。

さらに、地域が広域に及ぶため、これまでほとんどの団体がそれぞれ手探りで活動を行ってきた。

グループ同士が連携協力し、子どもと本のかけはしとなる読書ボランティアの活動の輪が、地域のすみずみまで広がっていくことが望まれる。

## 2 課題

- (1) これまで行われていなかった地域でも読み聞かせ会等を展開し、より多くの子どもたちが豊かに本にふれる機会を増やす必要がある。
- (2) 読書ボランティア同士の交流の機会を設けるとともに、読書ボランティアグループがない地域にもグループの立ち上げを促し支援する必要がある。

- (3) 様々な機会を通じて、読書ボランティアグループの活動とその意義を広くPRする必要がある。
- (4) 共同で研修会を行うなどして、読み聞かせの技術を高めたり、これから活動を始めようとするグループが学ぶ機会を設ける必要がある。
- (5) 学校や保護者、地域で子どもの読書活動推進を支援する協力者を増やす必要がある。

## 3 目的

二戸・久慈地区の読書ボランティアグループのネットワークを生かして広域にわたる読み聞かせキャラバンを展開するとともに、学校等における保護者やボランティアによる読書活動の支援を促し、地域の子どもの読書活動の促進と充実を図る。

## 4 事業内容

- (1) 読書ボランティアのネットワークづくりと研修  
年2回「二戸・久慈地区読書ボランティアミーティング」を開催し、読み聞かせキャラバンの展開について共通理解を図るとともに、グループ同士の情報交換を積極的に行っている。グループ同士で連携した取り組みが企画されたり、始めたばかりのグループへの支援がスムーズに行われたりするなど、意義は大きい。  
さらに、ボランティアミーティングと併せて毎回研修会を行っている。自らの技術の向上をめざした研修



ボランティアミーティングの様子

とともに、今年度は保護者や地域の方を対象とした研修会を開催し、読書活動推進のために身近な学校図書館の支援者を増やす取り組みをしている。

#### (2) 読書ボランティアによる読み聞かせキャラバン

ボランティアミーティングでキャラバンの計画を確認し、地域を分担して、平成16年度は35カ所の読み聞かせ会を実施した。17年度は、新たな場所30カ所を含む45カ所の読み聞かせ会の実施をめざしている。各グループ3カ所程度キャラバンとして読み聞かせ会を実施するが、内容などはグループそれぞれの特色を生かしたものとなっている。さらに、ミーティングを通じて地域を越えた実演交流も生まれた。

#### (3) 学校読書活動推進の協力団体等の立ち上げと支援

17年度は、キャラバンの展開の重点として学校図書館及び子どもの読書活動を支援する保護者やボランティアグループの立ち上げと支援をめざしている。読み聞かせ会に父母や地域の方を取り込んだり、学校での読み聞かせ会の際に、先生方に学校図書館の支援者の意義を伝えたりしている。

今年度の第2回の研修会では一般の支援者の参加を呼びかけ、共に研修する予定である。

#### (4) 読書ボランティアの団体及び活動紹介

キャラバンに協力している読書ボランティアを紹介するチラシを研修会の案内と併せて学校に配布し、連携を呼びかけている。

また、地区子どもの読書活動推進連絡会に各団体の代表が出席し、教育委員会担当職員、図書館関係者、学校関係者等にキャラバンの展開を紹介するとともに意見交換を行った。学校数や地域の数に比べてボ

ランティアグループの数が少ないことから、それぞれの学校や地域にボランティア等の支援者を作っていくことの大切さを訴えるとともに、保護者の読書活動への意識をさらに高めるために連携して取り組むことを提案した。

## 5 成果

キャラバンの展開を契機に発足した団体もあり、ほぼすべての市町村のボランティアグループのネットワークができた。互いに協力しながら、地域全域で読み聞かせ会等を展開することができた。

研修と情報交流の機会を持ったことにより、技術の向上とともにボランティアの視野が大きく広がり、図書館や公民館、福祉関係の事業にも乗り出すなど活躍の場が広がった。子育てボランティアとの連携も生まれている。

広域のグループが共同で活動を行ったことにより、様々な場面で活動のアピールができ、特に学校関係者とのつながりが深まりつつある。

## 6 今後の展望

現在17団体の協力により、広域のボランティアグループのネットワークの輪が広がっている。今後各地域や学校ごとの読書活動の支援者や協力者をさらに増やしていくよう活動を継続していく。地域からさらに家庭にその気運が浸透していくことを期待している。



昨年から引き続き、着実に事業を展開されています。学校図書館ボランティアを育てる試みについては、今後もぜひ続けてください。ひ

とりでも多くの理解者を得るために、まず大人の方に「おはなし会」を体験していただくのもひとつの方法です。読んでもらう楽しさ、心地よさを味わうことで、「子どもに読んであげよう」という気持ちが生まれる可能性があります。読書ボランティアの活動を知っていただく機会にもなります。

これまで継続されてきた活動が、ますます浸透しますように。

岩手県子どもの読書活動推進委員

馬場幸子

# 「本を読む習慣を作りあげた朝読書」

～朝読書は、ぼくらのコミュニティ～

盛岡市立城東中学校

連絡先：盛岡市立城東中学校 〒020-0805 盛岡市東新庄1-30-1 TEL 019-624-1524

## 【概要】

活動開始年度：平成14年度  
事業実施主体：盛岡市立城東中学校  
主な対象者：城東中学校全校生徒  
主な活動場所：城東中学校

## ★主な活動内容

- 1 朝読書で始まる一日
- 2 本を身近に・学級文庫
- 3 図書委員会の活動
- 4 読書ノートと読書の広がり
- 5 地域との連携

## 1 背景及び現状認識

現在、全国的に子どもたちの「読書離れ」「活字離れ」が叫ばれて久しいが、小学生に比較し、さらに中学生のそれは、目を覆いたくなるような状況にある。統計的にも「年齢が上がるにしたがって、読書離れが進んでいる」という傾向が見られる。確かに、受験やクラブ活動等があり、ゆっくり本を読むという時間は少ないのだが、あまりにも寂しいものがある。

しかし、近年「朝の読書」や「読み聞かせ」等、全校一斉の読書活動に取り組み、子どもの読書への興味・関心を高めようとしている学校が増えている。これは大変喜ばしいことであるが、広がりや継続性となるといまだ不十分である。

## 2 課題

- ・生徒に、本に親しむ時間的余裕がない。
- ・登校後の朝活動における慌ただしさ。

## 3 目的

全校体制による読書活動を推進することにより、生徒の落ち着いた一日の始まりや家庭での学習習慣の定着を図るとともに、豊かな人間としての表現力を高める。

## 4 事業内容

### (1) 朝読書で始まる一日

朝8時20分の鐘が鳴ると、廊下や教室でにぎやか

に話していた生徒たちが一斉に自分の席に座り、15分間じっくり本を読む。この時間、先生も一緒に教室で本を読む。

以前は、朝学習が行われていたが、なかには、宿題の時間に充てている生徒もみられた。そこで、平成14年度から全学年・通年の朝読書を実施したところ、登校後の騒々しさはすっと消え、ゆとりある一日の始まりとなった。宿題もきちんと家で行うようになり、家庭学習の習慣も定着し、一挙両得の朝読書となった。

### (2) 本を身近に・学級文庫

朝読書の時間、教室にはページをめくる音だけが静かに響く。その後、読み終えた本を友達や先生に薦めたり、薦められた本を読んだり活動が広がり、生徒と先生が「同じ本を読んだ体験」を共有する場ともなっている。

その学級文庫は、図書委員が毎月図書室で選んできたもの。ジャンルが偏らないように、様々な分野の本が月替わりで教室に届く。「自分の学級に良い本を」と図書委員は必死に探す、同時に図書館担当教員も奮闘する。月に何度も書店に足を運ぶなどして新しい本を買い揃え、図書室に加えている。

### (3) 図書委員会の活動

毎月定例で図書委員会が開かれる。その前にはもう生徒が集まり始め、それぞれ、学級文庫の返却、図書書の整理など自主的な活動が行われる。委員会が始まると、各委員から学級の読書の様子、自分たちの活



図書委員会の活動

動等の発表があり、活発に討議が行われる。

その後に様々な活動をするのだが、月に1回、委員は学級人数分の学級文庫を選書し、30冊前後の本選びに時間を割かれる。部活動に行く時間が惜しいはずであるが、図書委員は、クラスメイトの顔を思い浮かべながら楽しそうに本を選ぶ。そのとき、上級生から下級生への本の紹介も自然に行われ、どのクラスにも魅力的な本が、月替わりで届くことになる。

図書委員は、学級男女各1名の2名で構成され、どの学級でも人気が高く、競争率も高い。そのことは、委員会を見れば一目瞭然。やりがいがあり、みんなに認めもらえる。自分が選んだ本をみんなが喜んで読んでくれる。それが次の選書の意欲に繋がるという良い循環になっている。

#### (4) 読書ノートと読書の広がり

朝読書の時間、生徒は「読書ノート」を手元に置く。読み始めと読み終わりに、読もうと思った理由や感想を書き込み、学期が終わることに担任に提出する。担任は、生徒の読書状況を確認したり、本についての会話を生徒と楽しんだりする。

昼休みの図書館も多くの生徒に利用される。新しい本もすぐに多くの生徒の手に渡り、手垢にまみれていく。最近では、情報の豊かさや、表現の広がりが見られ、期末テストの「論作文テスト」に成果が見られようになった。また、日常の読書で得た情報や表現の方法を自らの作文表現に生かし、各種作文コンクールに積極的に応募する生徒も増えている。

#### (5) 地域との連携

城東中学校区では、地域が一丸となり教育活動を

進めている。特に、生徒に人気のある特設の「丸久文庫」には、ある地域の方が、30年近く続けている10万円の寄付金で購入した本が並ぶ。地域に貢献してくれている生徒への感謝の気持ちから、図書費として毎年贈られている。その図書費を活用して、できるだけ生徒の人気の高い本を購入しており、生徒に親しまれるコーナーとなっている。

## 5 成果

朝読書の定着により、落ち着いた一日の始まりや学力の向上のみならず、本から得た情報や表現の多様性を自らの表現活動に生かせるようになってきた。さらに、家庭での学習習慣も定着した。

地域の教育活動や全校体制の読書推進活動、そして、図書委員の積極的な活動や図書館担当教員の適切な指導・助言により、本のある学校生活が当たり前となり、豊かな潤いをもたらしている。

## 6 今後の展望

現在の活動を継続させながら、さらに広域的（他の学校・他の地域）な広がりを推進していくとともに、保護者・地域にも開放するなど開かれた学校（学校図書館）づくりが望まれる。



朝の読書活動によって、学校生活全般にわたり著しい効果があったとの報告には深い感銘を覚えます。ケータイやメールといった

IT機器での断片的情報が飛び交う中、ともすれば、便利さに流されやすい子どもたちが、自分の心との対話を促す読書という行為（これは集中力を伴う）にいそしむ姿は、まさに心が豊かになるための実験であろうし、その子どもたちの未来でぜひ出会いたいものだと思います。

岩手県子どもの読書活動推進委員

赤澤 桂一郎



# 「学校と地域が一体となった読書活動の推進」

～読書活動に地域一丸～

奥州市立前沢小学校

連絡先：奥州市立前沢小学校 〒029-4207 奥州市前沢区字下小路52 TEL 0197-56-2343

## 【概要】

事業実施主体：奥州市立前沢小学校  
主な対象者：前沢小学校全校児童  
主な活動場所：前沢小学校

## ★主な活動内容

- 1 全校朝読書の実施
- 2 「つぼみ賞」（読破目標達成賞）や「読書まつり」による、読書活動の日常的啓発
- 3 読書感想文集『つぼみ』の発行
- 4 「読書まつり」開催による読書活動の啓発・奨励
- 5 子どもの読書活動推進に関する地域や家庭との連携  
・「モチモチの会」「本を贈る会」  
・前沢地区教育振興会

## 1 背景及び現状認識

「いわて子ども読書プラン」では、読書活動推進のために必要な取り組みが示されているが、学校を「子どもの読書活動」の中核拠点と位置付け、地域や関係機関、家庭がそれぞれの役割を明確にし、連携を進めることによって、父母や地域住民の支援や参画が可能となる。

また、こうした活動を通じた地域連携の下での取り組みは、高い教育効果と同時に、将来の地域人としての子どもたちの育成にも大きく寄与するものである。

## 2 課題

- (1) 多様化、情報化の進む今日にあっては、学校の持つ教育機能や限られた学校図書館の蔵書だけでは、十分な効果を挙げることは困難な状況にある。
- (2) 公立図書館や地域社会には、有用な図書や教育機能が多く存在する。そうした機能を有効に活用するため、相互理解を図り、具体的手だてを講ずる必要がある。

## 3 目的

子どもの読書活動推進のためには、家庭、学校、地域が果たすべき役割を十分に尊重しながら、円滑な活動連携のための基盤の整備を行うことが重要である。そこで、地域の教育機能を最大限に活用しながら、子どもたちの身の回りが、いつでも「お話」や「本」に溢れ、読書の楽しさを体いっぱいを感じることでできる環境づくりを



「つぼみ集会」での図書紹介

進めることとした。

## 4 事業内容

### (1) 全校朝読書等の実施

本校では、読書指導を教育課程に明確に位置付け、意欲の向上を図る読書環境の工夫に取り組んできた。平素の活動では、毎週1回、15分間の朝読書の時間を設け、読書活動の習慣形成を進めている。

低学年の子どもたちに対しては、授業の中で教師自らが「読み聞かせ」を行うなど、学年・段階に応じた「本」の楽しみ方の指導を行っている。

### (2) 「つぼみ賞」の設定による児童への読書活動啓発

学年毎に読破目標を定め、読書活動継続のための啓発を進めている。目標を達成した子どもたちは、「読書まつり」等の機会に多読者表彰を受ける。

各学年の教室近くには、図書委員会の子どもたちの手による、達成者を紹介する掲示を設けている(「読書の木」に順次貼り付け)。これにより、読破目標を強く意識する子どもたちが多く見られるようになった。

卒業時には、「貸出カード」と「読書の記録カード」を「6年間の読書の記録」として卒業生に贈呈する。

学年別読破目標

| 学 年 | 推薦図書   | 読破目標(推薦図書を含む) |
|-----|--------|---------------|
| 低学年 | 各学年20冊 | 80冊           |
| 中学年 |        | 60冊           |
| 高学年 |        | 40冊           |

### (3) 読書活動に地域一丸!

#### ア 「モチモチの会」と活動連携

こうした取り組みは、PTA会員を中心とする読書ボランティアグループ「モチモチの会」の支援を受けている。15年前から始まった月例の学校訪問や「読書まつり」「学習発表会」等での人形劇の上演などは、本校の読書活動に欠かせないものとなっている。

月例訪問による読み聞かせ会は、学校の教育計画に位置付けられている。実施内容についても、季節感や地域行事・学校行事等を配慮しながら、絵本の読み聞かせを中心に、ペープサート、紙芝居、人形劇等、多様な領域に及んでいる。

#### イ 「親子読書体験発表会」の開催

前沢地区教育振興会では、地域や家庭における読書活動の推進を重点項目として進めてきた。

特にも、長期休業における地域や家庭での「親子読書」の日常実践を進め、その活動奨励の機会として「心豊かな前小っ子を育てる会」を開催し、親子読書体験発表等の活動紹介を行うなど、地域住民を巻き込んだ読書による地域づくりの具現を目指している。

#### ウ 「子どもに本を贈る会」による図書の寄贈

「子どもたちに1冊でも多くの本を提供したい」との願いから、平成4年に学区の有志の寄付により、基金「子どもに本を贈る会」が創設され、毎年、多くの児童書の寄贈が行われている。こうした活動は、多くの地域住民の理解を得て、最近では春祭り厄年連等を始めとする各種団体からの寄贈も行われている。

### (4) 図書館だより、読書感想文集「つぼみ」の発行

様々な日常的な読書への取り組みは、図書館だより

「つぼみ」によって具体的に家庭や地域に伝えられ、さらなる活動のきっかけづくりの「もと」となる。

また、昭和31年から毎年刊行している読書感想文集「つぼみ」は、昨年度までで発刊74集を数え、本校の読書活動の歴史を物語っている。

## 5 成 果

子どもたちを本に親しませるには、教師を含めた大人自身が読書の楽しさを知り、子どもたちにその「おすそ分け」を行うことが大切だと考えている。

「読書」というキーワードを通して、学校をステージとした多くの営みの中で、住民、地域団体、図書館等が同じ思いを持ち、それぞれの持ち味や機能を発揮し合い、少しずつ「知恵」と「力」を出し合った結果として「本が大好きな子どもたち」がたくさん育っていることが一番の成果である。そして、この「地域との一体感」が17年度読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰に結びついたものと理解している。

## 6 今後の展望

平成21年には近隣の小学校との統合が予定されているが、これまでの財産を受け継ぎ、より大きくしながら、子どもを介した地域の読書活動の発信基地としての学校の特性や役割を再認識し、一層の相互交流や活動連携を進めていきたいと考えている。



学校を「読書活動の拠点」と位置付けた取り組みがなされている前沢小学校の子どもたちは幸せだと思う。

「幼い頃に本を読む習慣が身に付いている子ども」は、大きな財産を身に付けている。読書の楽しさを知った子どもは、本を読む楽しみと一生付き合っていける。地域の図書館も積極的に利用されていこう。

学校が中心となり、「読書」の話題で保護者や地域がつながっているこの地域は、人と人との心がつながり、文化的な豊かさが広がっていきたく感じました。

岩手県子どもの読書活動推進委員

伊藤 明 美

# 「図書館に負けない公民館図書室を」

～地域住民に愛されるためのリニューアル～

葛巻町公民館

連絡先：葛巻町教育委員会生涯学習課 〒028-5495 岩手郡葛巻町葛巻16-1-1 TEL 0191-82-5326

## 【概要】

活動開始年度：平成14年度  
事業実施主体：葛巻町教育委員会生涯学習課  
主な対象者：葛巻町民  
主な活動場所：葛巻町公民館図書室

## ★主な活動内容

- 1 図書館の改修「リニューアル」
- 2 利便性の追求
- 3 図書管理システムの導入
- 4 ブックスタート事業
- 5 読み聞かせ映画会

## 1 背景及び現状認識

平成12年度に町民に対して実施した「生涯学習に関するアンケート調査」で、希望する施設のトップが「図書館」であった。この調査により、葛巻町民は生涯学習の拠点施設として図書館を望んでいるという事が明らかとなった。

現在、葛巻町には公民館図書室がある。しかし、図書室は暗く、閉鎖的で町民の利用も少ないうえ、本の貸借の方法も効率が悪く、蔵書もニーズに応えるところまで揃っていないのが実情だった。

このような状況にありながら、ハード事業の抑制や財政上の問題から、独立した図書館の建設は実現困難な課題といえた。

## 2 課題

- (1) 町民のニーズに応える図書館がない。
- (2) 公民館図書室の登録者数・利用者数が少ない。
- (3) 図書室が暗く、閉鎖的になっている。
- (4) 本の貸借方法の不便さと蔵書の少なさ。

## 3 目的

公民館図書室を明るく、開放的にリニューアルしながら、蔵書を充実したり、本の貸借方法を効率的に変えたりして、登録者数・利用者数を拡大させることにより、葛巻町の生涯学習の拠点施設としての機能を果たせるようにしたい。



明るく清潔になった図書室

## 4 事業内容

### (1) 図書室の改修「リニューアル」

平成14年度に、暗く、閉鎖的であった公民館図書室を改修した。具体的には、

- ① 図書室の扉と壁を取り払い、新たなスペースを創出した。
- ② 公民館ロビーと一体化した。

こうして、明るく広々とした図書室がリニューアルオープンした。この改修工事には、柱や梁などに町の木材を使用し、公民館職員も工事に携わった。手作りの香りのする新しい図書室の誕生である。

さらに15年8月には、以下の整備を進めた。

- ① 「木のぬくもりが感じられる書架」の整備  
全てのスチール書架を取り払い、新しい書架には町

の木材を使用した木製のものを設置した。

## ②「子供絵本コーナー」の新設

床は畳敷きとし、座って絵本を読んだり、読み聞かせができるようにした。

「きれいになったね」「木の香り、ぬくもりがとても良い」など、公民館図書室を訪れる市民の評判はすこぶる上々である。

## (2) 利便性の追求

平成15年度に、これまでの返却の仕方を簡素化し「本の返却は、指定の書棚に置くだけ」にして、利便性を充実させ、利用しやすくした。

さらに、新刊本を積極的に紹介し、貸し出し中の本でもリクエストがあれば、返却されるとすぐに連絡し、貸し出すサービスを実施した。これらのサービスにより、図書室の登録者数・利用者数が飛躍的に増加した。

## (3) 図書管理システムの導入

15年度の利用者数の増加を受け、蔵書管理の手続きの効率アップを図るため、パソコンによる「図書管理システム」を導入した。利用者にとって、「本が借りやすい」「読みたい本が探せる」など大変好評だ。

その他にも、図書検索の充実、貸し出し履歴のプライバシー保護や、「ブックポケット」「図書カード」の廃止による消耗品費、図書の整理作業の時間短縮による人件費等のコスト削減にも結びついている。

## (4) ソフト事業の充実

平成14年度から、ブックスタート事業を展開している。1歳6カ月の幼児と保護者を対象に「絵本のプレゼント」と「読み聞かせ」を実施し、文字通り「子どもの読書活動推進」の第一歩として、定着している。

また、出前事業として、「読み聞かせ映画会」を開催している。毎月指定の土曜日に、各地区公民館を巡回して、「絵本の読み聞かせ」と「映画会」を実施する。現在は子どもたちに定着し、人気を博している。

さらに、この他にも「読書の集い」「読書祭り」「手作り絵本教室」など各種事業を実施している。

## 5 成果

リニューアル後の平成15年度から図書利用冊数が飛躍的な伸びを示している。14年度と比較すると、15年度は4倍、16年度は8倍という数字となっている。こ



図書室で手作り絵本教室も楽しく開催

れは、市民の潜在的な読書関心の高さが、公民館図書室の大改革(ハード・ソフト両面)と結びついたものと考えられる。

また、町の木材を使用したことにより、木のぬくもりのある親しみやすい図書室になると同時に、地場産業の振興にも繋がる可能性も大きくなっている。

「図書館に負けない公民館図書室を」という職員の熱意がリニューアルを実現させ、より一層市民に親しまれる図書室づくりが進められている。

## 6 今後の展望

学校との連携による図書の活用を視野に入れながら、専属職員を配置し、図書ボランティアの育成を図る事を考えていかなければならない。



明るく開放的なスペース、借りやすく返しやすい手続き、プライバシーの保護、「返却待ち」の実施など、近代的な図書館の要素が手作

りによって実現され、実際に市民の支持を得て利用が増えていることは素晴らしい。あとは専任職員の配置と未所蔵のリクエストを実施すれば、十分「図書館」と名乗れると思います。図書館づくりへ大きな一歩を踏み出した事例であり、大変参考になります。

岩手県子どもの読書活動推進委員

片野裕嗣

# 「読書意欲を高める図書館活用」

～授業での利用と、図書館ネットワークの活用をとおして～

一関市立長坂小学校

連絡先：一関市立長坂小学校 〒029-0302 一関市東山町字東本町12 TEL 0191-47-2119

## 【概要】

活動開始年度：平成14年度  
事業実施主体：一関市立長坂小学校  
主な対象者：長坂小学校全校児童  
主な活動場所：長坂小学校

## ★主な活動内容

- 1 図書館活用年間計画の作成と授業実践
- 2 一関地区図書館ネットワークの活用
- 3 日常指導の充実

## 1 背景及び現状認識

千厩教育事務所管内の各小・中学校並びに県立高等学校図書館、公共図書館等の広域ネットワーク化が図られるとともに、宅配業者を介して約41万冊の蔵書等の貸借システムが構築されている。また、毎週1日、図書館司書業務の支援に「学校図書館推進員」が来校している。

## 2 課題

長坂小学校の児童は、全体として明るく素直であり、課題に対しては真面目に取り組み、努力する良さを持っている。しかし一方で、教師の指示を待っていたり、より高いものを求めようとせず、現状に満足したりする傾向もみられた。

学校図書館の利用に関しては、本を読むことは好きであるが、積極的に図書館に行って本を借りたり、本を読んだりする児童は少ないという実態がアンケート調査により明らかになった。

## 3 目的

すでに構築されている図書館ネットワークを積極的に活用することによって、学校図書館が持つ機能をさらに高めるとともに、図書館を効果的に活用した授業実践等を通して、児童の読書意欲を高め、「読書好き」な子どもの育成を図る。

## 4 事業内容

### (1) 図書館活用年間計画の作成

各教科等で、図書館を活用した授業が有効と思われる単元を洗い出し、学年毎に年間計画を作成した。そして、「指導過程のどの場面でどのように活用するのか」、また、「どのような資料を活用するのか」を明らかにし、その計画にもとづいた授業を実践している。

### (2) 図書館ネットワークの活用

学校には毎週1回、貸借システムによる41万冊の本のリストの中から予約・検索した本が届けられる。これは、教師が授業で活用するための団体貸出用図書のほか、子どもたちも読みたい本を自由に借りることができるようになっている。



学校に配達された図書

### (3) 「昼読書」実践の工夫

5校時開始前の10分間を、全校一斉の読書タイムとして設定している。子どもたちは常に机の中に本を用意し、短時間でありながら有効に活用している。教師も一緒に読書に取り組むとともに、時には読み聞かせをしたりして、子どもたちの意欲向上に努めている。

### (4) 家庭や地域との連携

#### ① 読み聞かせボランティアによる「お話し会」

毎週火曜日の昼の20分間、対象を低・中・高学年に分け、順番で実施している。希望する地域住民が、ボランティアとして参加している。

#### ② 学校図書館ボランティア

保護者を中心とした8人のメンバーが、学校図書館ボランティアとして図書館の環境整備や本の修理、ネットワークの世話などを行っている。

#### ③ 公共図書館の利用

一関市立東山図書館の図書を学級文庫として利用している。また、移動図書館「やまゆり号」が毎月2回来校し、図書の貸し出しを行っている。

#### ④ 親子読書カード

10月に2週間実施している。児童がカードに読書の記録を記入した後、保護者がそれに対する感想を書いている。

### (5) 読書意欲を高める環境作り

#### ① 図書コーナーの新設

(多目的ホール、プレイルームに低い書架を配置)

#### ② テーマ図書コーナー

(月毎にテーマを定め、図書を展示)

#### ③ ○○先生コーナー

(思い出の一冊、お薦め本、学習関連本を展示)

#### ④ 掲示コーナーの新設

(廊下や階段等に低・中・高学年毎に設置)

#### ⑤ 図書室の改装

(低い書架への取替えやカウンター等の塗り替え、平テーブルの設置)

### (6) 学校図書館推進員による支援

毎週1日学校図書館を訪問し、児童への読書相談や読み聞かせ、図書館活用年間計画における図書の予約、図書館ネットワーク業務などを行っている。



読書のための環境整備

## 5 成果

- (1) アンケートから、ほとんどの児童(95%超)が「読書が好きになった。」との結果を得た。
- (2) 図書館活用年間指導計画を作成したことで、これまで以上に見通しをもった授業を行うことができた。
- (3) 一関地区図書館ネットワークの活用により、本校にない図書でも容易に準備でき、読書活動や調べ学習に大きな広がりを持てるようになった。
- (4) 昼読書を設定したことにより、児童の読書が習慣化し、読書に対する意欲が高まった。

## 6 今後の展望

読書に興味を示せない児童への働きかけを大切にし、これまでの研究成果が子どもたちの今後の生活に生かされ、継続していくよう、引き続き先進校に学びながら研究実践を続けていきたい。



子どもたちの実態をもとに、その読書意欲を高めるために一関地区図書館ネットワークを活用し、学校図書館の機能を高める素晴らしい事例です。また、土台となる「本の魅力・面白さ」に目覚めさせる日常指導の充実が図られており、全体計画のもとに進められていることから、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる事例として大変参考になります。

岩手県子どもの読書活動推進委員

赤川博行

# 「学校読書活動に対する支援」

～学校のニーズに対応した公立図書館の支援～

花巻市立石鳥谷図書館

連絡先：花巻市立石鳥谷図書館 〒028-3171 花巻市石鳥谷町中寺林7-5-1 TEL 0198-45-6882

## 【概要】

活動開始年度：平成15年度  
 事業実施主体：花巻市立石鳥谷図書館  
 主な対象者：町内小中学校児童生徒、保育所園児  
 及び教員、保育士  
 主な活動場所：石鳥谷図書館、町内小中学校、保育所

## ★主な活動内容

- 1 学校図書室担当者会議
- 2 学校図書室巡回補修事業
- 3 読み聞かせボランティア養成及び派遣
- 4 学校、保育所への集団移動図書貸し出し

## 1 背景及び現状認識

総合的な学習（調べ学習）が始まって以来、学校図書館に、学習情報センターとしての役割が求められるようになった。また、子どもの読書活動推進のため、学校と公立図書館の実効的な連携が急務となっている。

一日の大半を学校で過ごす児童生徒にとって、まず、最も身近な学校図書室を、足を運びたくなるような存在にしていくことが重要であると考えます。

そこで、児童生徒にとって望ましい読書環境づくりの一助としてもらうために、町内各小中学校との連絡や情報交流を十分に行い、学校のニーズをとらえ、当図書館の持つノウハウやサービスを積極的に提供していくこととした。

提供できる情報やサービスを理解してもらう。

- (3) 学校への情報、サービスの提供をとおり、小中学生にとって望ましい読書環境を作る。



表紙が見える配架（八重畑小学校）

## 2 課題

学校図書室の担当教員は、図書室運営以外の業務で忙しく、転勤もある。そのため、公立図書館の提供するサービスや情報が十分には伝わりにくいことを踏まえた上で、学校は公立図書館に何を望むのか、それに応じた情報やツールは何かを整理し、形式的でない、学校現場で本当に役立つ情報やサービスを提供することが必要である。

## 3 目的

- (1) 学校の図書室経営上の課題やニーズを理解する。
- (2) (1) に応じた具体策を示しながら、公立図書館が

## 4 事業内容

- (1) 第1回学校図書室担当者会議（5月）
  - ア 図書館が提供できるサービスについての確認
    - ・「総合的な学習」や「調べ学習」で資料として使いたいときに
    - ・学習テーマと問い合わせ方
    - ・集団読書として活用したいときに
    - ・学校図書の補修について
    - ・読み聞かせの出前について
    - ・選書について
  - イ 学校図書室担当者としての課題、市立図書館へ

の要望 → 図書補修、図書廃棄の基準、選書

学校図書室担当の教員は、学級担任をしながらの図書室運営であり、最低限の図書事務で手一杯になっているのが現状と思われる。今後は公立図書館が自館の貸出業務だけでなく、積極的に学校への協力支援をしなければ将来的なネットワークの展望は持てない。

(第1回学校図書室担当者会議 事業担当者会議報告書より)

↓  
学校図書室へ直接出向き、作業をとおして  
ノウハウや情報提供(新事業の検討)  
↓

## (2) 学校図書室巡回補修事業(1月～2月)

※小学校4校、中学校1校

ア 1日に1校、図書館員(2～3名)が学校図書室に出向き、傷んだ図書の修繕を実施。

イ 配架の仕方、工夫をアドバイス

(例:表紙が見える配架)

ウ 図書委員(児童・生徒)ができることの紹介

(例:本を拭いて返すこと)

## (3) 学校図書室担当者会議(2月)

ア 図書館事業の実績、移動図書館の利用状況

イ 学校と図書館との連携事業の反省、意見交流

学校からの要望:除籍になった学校図書を図書館に → 図書館で対応していく方向

## 5 成果

### (1) 学校と図書館の相互理解 → 図書館にとって新たな支援サービスの展開のきっかけ

積極的に意見交換をすることにより、利用者のニーズが見えてくる。学校図書室巡回補修事業は学校図書室担当教員からの声に応じたものであり、非常に好評であった。

### (2) 学校図書室担当教員と図書館職員との情報交流

月2回の移動図書館日には、学校から様々な問い合わせや要望をいただくことが多くなった。また学校の図書室担当教員の問い合わせは、他の教員のものである場合も多くなってきた。学校での読書活動推進の取り組みは、担当教員から全校での取り組みへと確

かな広がりがみられる。

### (3) ボランティアの設立へ

図書修繕であればできるという父母や地域の方々がボランティアを立ち上げ、定期的に修繕する学校も現れてきた。

### (4) 図書委員会の活動として

本を拭いて整理することを委員会活動に取り入れた学校では、図書室の整理整頓が日常的に行われるようになってきた。



児童による図書の整理整頓(八重畑小学校)

## 6 今後の展望

役に立つ情報提供や読書活動支援のために、学校図書室巡回事業を、テーマや回数を検討しながら拡充発展させていきたい。



公立図書館としての支援が、基本的な考え方・理念にはじまり配架・補修方法などの具体的なことまで多岐にわたっており、その成

果が有形無形にあらわれています。さらに、学校内にとどまらず、ボランティア設立などの地域活動へと発展し、子どもたちのより豊かな読書体験につながると考えます。

今後、この事業に直接関わっていない学校等でも実践できるような手だての確立(例えばホームページへの掲載など)も、事業の充実につながるのではないのでしょうか。

岩手県子どもの読書活動推進委員

高橋洋子



# 「ほんとに楽しい読書のススメ事業」

～ 学校図書館ボランティア立ち上げ支援による本好きな子どもの育成～

宮古読み聞かせの会「ぞうさんのミミ」

連絡先：宮古教育事務所 〒027-0072 宮古市五月町1-20 TEL 0193-64-2222

## 【概要】

活動開始年度：平成14年度  
事業実施主体：宮古読み聞かせの会「ぞうさんのミミ」  
主な対象者：幼児、小学生、高齢者  
主な活動場所：宮古市内

## ★主な活動内容

- 1 学校図書館ボランティア立ち上げ支援
- 2 6ヶ月・2歳半健診時での読み聞かせ
- 3 老人ホームでの読み聞かせ
- 4 家庭教育学級での公演
- 5 保育所や小学校への定期的な読み聞かせ
- 6 読書ボランティア交流会や研修会の開催

## 1 背景及び現状認識

学校図書館において保護者や地域住民によるボランティア活動が行われている学校は、全国平均で16.3%（平成11年度文部科学省調査）であるが、当管内においては、約5.1%（平成16年3月宮古教育事務所調査）と、全国に比べ低い結果が出ている。

このような現状を踏まえ、今後、多様な経験を有する地域の社会人やボランティアの協力による、児童生徒の読書に親しむ態度の育成や、地域の特色を生かした読書活動の推進が求められている。



図書館ボランティアによる読み聞かせ（川井小学校）

## 2 課題

子どもの読書活動を推進するために、図書ボランティアが組織されていない市町村において、特に学校図書館を支援するボランティアの立ち上げを支援していく必要がある。

## 3 目的

- (1) モデル校を指定し、地域で活動している経験豊かな読書ボランティアを定期的に派遣することにより、読書活動を通じた児童生徒の豊かな人間性の育成を図ると共に、学校図書館ボランティア立ち上げの支援を行う。
- (2) 本事業を「宮古地区子どもの読書活動推進計画」策定に向けた実践研究として位置づけ、計画策定の大きな足がかりとする。

## 4 事業内容

モデル校に派遣された学校図書館支援員が、学校図書館に関する活動を支援する。

### (1) 学校図書館支援員の役割

- ① 各校へ3名、年間20回程度の派遣とし、定期的な読み聞かせの実施と図書ボランティアを指導。
- ② 明るい魅力ある学校図書館の環境整備と図書の修理およびその指導。
- ③ 読み聞かせや図書修理等の交流会を通して、図書館ボランティアの意識の高揚を図る。

### (2) 川井村立川井小学校における実践

- ① 読み聞かせ  
・ 学校図書館支援員（「ぞうさんのミミ」）による読み聞かせ学習会の開催

- ・「ひまわりの会」(地域住民)、「ひだまりの会」(PTA)の立ち上げ
- ・図書館ボランティアによる読み聞かせの実施(学校訪問週間、学習発表会、お誕生会)

## ② 図書修理

- ・学校図書館支援員(「まつぼっくりの会」)による図書修理の学習会を開催
- ・図書館ボランティアと図書委員会児童による図書修理作業

## ③ 図書館レイアウト

- ・学校図書館支援員(花巻市立石鳥谷図書館司書)から、図書館環境整備についてアドバイスを受ける。

## (3) 田野畑村立田野畑中学校における実践

### ① 読み聞かせ

- ・一般、中高生による読書活動ボランティアグループ「くるんば」の立ち上げ
- ・学校図書館支援員(「ぞうさんのミミ」)の指導による読み聞かせ練習会の実施
- ・読み聞かせ活動の展開(保育園:中学生ボランティア、小学校:高校生ボランティア)

### ② 図書館レイアウト

- ・学校図書館支援員(花巻市立石鳥谷図書館司書)から、図書館環境整備についてアドバイスを受ける。

## 5 成果

### (1) 川井小学校

学校図書館支援員による研修の後、7月に地域とPTA組織の2つのボランティアが立ち上がり、月に1度の読み聞かせ会を実施している他、近隣の小学校へ出向き、読み聞かせ会を実施するなどボランティア相互のネットワークづくりに努めている。

### (2) 田野畑村

地域ボランティアに高校生も加わり、学校図書館支援員の指導のもと研修を重ね、11月には島越小学校で高校生による読み聞かせ、羅賀小学校で地域ボランティアによる読み聞かせを実施した。今後、他の小学校でも読み聞かせを計画しており、村全体で読書好きな子どもを増やす環境整備を進めている。

### (3) 田野畑中学校

3年生を中心とした読書ボランティアが組織され、

11月に保育所での読み聞かせを皮切りに、小学校や老人施設への訪問等、地域との交流の輪を広める計画を進めている。



高校生ボランティアによる読み聞かせ(島越小学校)

## 6 今後の展望

- (1) 花巻市立石鳥谷図書館司書を招き、そのアドバイスを受けながら、田野畑中学校の校舎のはずれにある学校図書館を中央に移設して、学校生活の中にいつも図書がある環境を整備する。
- (2) 活動を情報誌にまとめ、管内小中学校の全家庭に配布し学校図書館ボランティアの普及に役立てる。
- (3) 息の長い活動となるよう、「学社融合」の視点を取り入れた事業の推進に努める。
- (4) 実践研究やアンケート調査の分析に基づく「宮古地区子どもの読書活動推進計画」を平成18年度中に策定する。



本好きな子どもの育成・読書推進は、日常生活に根ざした息の長い取り組みが継続されることが大切です。

学校図書館ボランティアの立ち上げや研修、組織的な手だてや地域の広がりなど、素晴らしい活動内容と考えます。また、多彩な活動のひとつとして、6ヶ月の乳児の読み聞かせも重視していることは、親への呼びかけとなり、素晴らしい実践です。

岩手県子どもの読書活動推進委員

土岐幸子

# 「花巻市子ども読書活動推進計画」

～ 家庭、地域、学校の連携をめざして～

花巻市教育委員会

連絡先：花巻市立花巻図書館 〒025-0097 花巻市若葉町3-16-24 TEL 0198-23-5334

## 【概要】

活動開始年度：平成16年度  
 事業実施主体：花巻市立花巻図書館  
 主な対象者：学校、地域、家庭に関わる全市民  
 主な活動場所：花巻市内

## ★主な活動内容

- 1 花巻市子ども読書活動推進計画策定会議の設置（内部検討委員会）と協議
- 2 花巻市子ども読書活動推進計画検討会議の設置（外部検討委員会）と協議
- 3 花巻市子どもの読書活動の状況調査と指標作成
- 4 パブリックコメント

## 1 背景及び現状認識

全国的に、情報メディアの発達・普及や生活スタイルの変化などにより、子どもの読書離れが指摘されている。花巻市においても全国と同様、この傾向にあるという認識に立ち、国における「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行や「いわて子ども読書プラン」をふまえて、「花巻市子ども読書活動推進計画」を策定した。

動推進上の現状と課題を踏まえ、望ましい取り組みを示す。

- (2) 推進計画の進行状況を示す目標値を設定する。
- (3) 市図書館における利用上の情報やサービス情報を示し、市民への読書活動推進の理解を図る。
- (4) 優れた郷土の偉人や文化に触れたり知ることができる機会をPRし、郷土を愛する心を育む。

## 2 課題

- (1) 読書活動推進のための家庭、地域、学校及び行政の連携はどうあればよいか。

読書の意義、効用については誰しもが認め、学校や地域でもそれぞれでの取り組みがなされてきた。子どもの発達段階をふまえ、学校、家庭、地域、行政が連携して読書環境を整えていく場合、それぞれの役割は何か。相互に協力しあえる体制はどうあればよいか。

- (2) 子どもに身近な大人の読書活動に関する理解と関心をどう高めるか。

子どもの読書活動を支え導くには、身近にいる大人が読書に対する理解を深めていくことが重要である。家庭、地域、学校など幅広い大人の理解と関心を高めていくための読書活動への普及はどうあればよいか。



花巻市子ども読書活動推進計画

## 3 目的

- (1) 家庭や学校、地域及び行政の各機関における読書活

## 4 事業内容

- (1) 推進計画作成期間  
平成15年9月から平成16年3月
- (2) 推進計画期間  
平成16年4月から平成20年3月までの5年間
- (3) 推進計画策定組織
  - ① 策定会議の設置（内部検討委員会）と協議
    - a 現状の調査と分析

- b 推進計画素案及び計画案の作成
- c 外部検討委員会への協議
- d パブリックコメント制度の活用
- e 施策等事業の指標の設定

② 市内公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校における読書環境、実態調査

課題を明確化、現状に沿った推進計画を策定

③ 検討委員会(外部委員会)の設置及び協議

- a 素案、計画案の協議
- b 毎年の進捗状況等の協議と施策向上の検討

④ パブリックコメント制度の活用

市推進計画は、花巻市の政策に関する基本的な計画の策定であることから、パブリックコメント制度を活用し、広く一般の意見を考慮しながら計画を立案する。

(4) 推進計画策定の流れ

- ① 第1回策定会議(10月)
  - ・子どもの読書活動推進に係る国、県の動向
  - ・花巻市の子どもに係る各機関、各分野における読書環境の現状と課題
- ② 第2回(11月)、第3回(12月)策定会議
  - ・推進計画素案の作成(事務局)及び検討
- ③ 第1回検討委員会(1月)
 

(花巻市らしさを吟味)
- ④ 第4回策定会議(2月)
  - ・推進計画検討
- ⑤ 第2回検討委員会(2月)
- ⑥ パブリックコメント開始
- ⑦ 小学校、中学校、高等学校読書環境実態調査
- ⑧ 第5回策定委員会(3月)
  - ・指標等を入れた計画案
- ⑨ 第3回検討委員会(3月)

5 成果

- (1) 国の動向や県の読書プランをもとに「花巻市らしさ」を追求していく中で、計画全体が箇条書きに統一され、取り組み事項をより具体的に示すことができた。
- (2) また、策定会議(内部委員会)や検討委員会(外部委員会)での協議により、子どもの読書環境についての共通課題が確認されたことに加え、パブリックコメント制度の活用により、読書環境整備に対する幅広

い大人の関心が高まった。

花巻市子ども読書活動推進計画策定委員  
(内部委員会)

- 教育委員会関係機関(課)
- 総務課 1名
  - 学校教育課(指導主事) 1名
  - 生涯学習振興課 1名
  - 小学校図書室担当者 1名
  - 中学校図書室担当者 1名
  - 高等学校図書館担当者 1名
  - 幼稚園 1名
  - 花巻市図書館(事務局) 3名
- 保健福祉部関係機関(課)
- 児童福祉課 1名
  - 市立保育園 1名
- 指導協力機関
- 花巻教育事務所(社教主事) 1名
- 計13名

花巻市子ども読書活動推進計画検討委員  
(外部委員会)

- 市社会教育委員 1名
  - 市図書館協議会委員 1名
  - 市PTA連合会 1名
  - 地域教育振興協議会 1名
  - 市学童クラブ連合会 1名
  - 私立幼稚園 1名
  - 法人立保育園 1名
  - 読み聞かせボランティア団体 1名
  - 大学
  - 公募(男女各1) 2名
- 計11名

6 今後の展望

市町村合併により新たな推進計画を策定しなければならないが、今回の策定までの流れを活用していきたい。



市町村レベルでの読書推進計画の策定が進んでいない状況で、いち早く計画を策定した意義は大きいものがあります。図書館が事務局に

なり、教育と保健福祉の関係各課が協力して作り上げており、読書に関わる様々な場面への目配りがなされています。

特に「大人の理解と関心を高めていく」ことに着目したことは評価できます。専任司書教諭の配置や職員等の研修について言及していますが、人的体制がより充実すれば、この計画がより実効性のあるものとなるでしょう。

岩手県子どもの読書活動推進委員

片野裕嗣

# 「北上地区子どもの読書活動推進事業」

～ 読書の素晴らしさを地域の子どもたちに～

北上教育事務所

連絡先：北上教育事務所 〒024-0095 北上市芳町2-8 TEL 0197-65-2739

## 【概要】

活動開始年度：平成16年度  
事業実施主体：北上教育事務所  
主な対象者：学校に配置された読書ボランティア  
(保護者・地域住民・学校教職員)  
主な活動場所：管内各小中学校、北上教育事務所

## ★主な活動内容

- 1 読書活動推進員の各小中学校への派遣
- 2 読書ボランティア研修会の開催
- 3 情報誌の発行

## 1 背景及び現状認識

昨今、テレビや携帯電話、インターネット等の情報メディアの発達や普及、子どもの生活環境の変化等により、子どもの「読書離れ」が指摘されている。

そこで、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行や「同基本計画」、岩手県子どもの読書活動推進計画「いわて子ども読書プラン」の策定を受け、これまで家庭・学校・地域がそれぞれ進めてきた子どもの読書活動推進の取り組みをさらに推し進めるために、読書活動を支援するボランティアの育成が必要と考える。

## 2 課題

- (1) 中学校における読書ボランティアグループの設立
- (2) 読書ボランティアグループのスキルアップとネットワーク化
- (3) 活動状況の周知

## 3 目的

- (1) 読書ボランティアによる学校図書館の環境整備や読み聞かせなどの活動を通して、児童生徒の読書活動の意欲を高める。
- (2) 学校PTAを中心とした地域住民に、読書のすばらしさやその効果、あるいはボランティア活動の意義等を認識させ、読書活動を支援するボランティアグループ設立を推進する。

【重点】 中学校における読書ボランティアグループ

## の設立

- (3) 読書ボランティア研修会を開催し、ボランティアのスキルアップと情報交換、ボランティアグループのネットワーク化を図る。



読み聞かせの様子（北上南小）

## 4 事業内容

- (1) 読書活動推進員の派遣

学校図書館における読書活動の推進や環境整備等を行う読書ボランティアグループの設立の体制づくりについて支援する読書活動推進員を派遣する。

### ① 読書活動推進員の委嘱

・読書ボランティアグループの設立や既存の読書ボランティアグループの活動を支援する読書活動推進員を委嘱する。

### ② 訪問・要請指導

・管内の中学校を訪問し、読書のすばらしさやそ

の効果、あるいはボランティア活動の意義等について説明し、保護者や地域住民を中心とした読書ボランティアグループ設立を働きかける。

・既存の読書ボランティアグループの要請に応え、活動を支援するための助言や指導を行う。

## (2) 読書ボランティア研修会の開催

ボランティアのスキルアップや情報交換を目的として、ブロックごとに研修会を開催する。また、ボランティアグループのネットワーク化と更なるスキルアップを目指し、合同研修会を開催。

### ① ブロック研修会

【開催方法】管内 38 小中学校を近隣中学校区で 5 ブロックに分け、各 2 回ずつ開催する(5 ブロック×2 回=10 回)。

【開催時期】1 回目: 5 月中旬～7 月中旬

2 回目: 8 月下旬～10 月中旬

【対象】各小中学校の読書ボランティア、学校図書館担当職員、公立図書館職員、市町村教育委員会担当職員、地域読書ボランティアグループ

### ② 合同研修会

【開催時期】平成 18 年 1 月 24 日(火)

【対象】ブロック研修会と同じ

## (3) 情報誌の発行

読書ボランティアの活動の様子や読書の大切さ、意義を広く普及するとともに、学校・家庭・地域が連携して読書活動を推進するための情報誌を発行する。

### 【掲載内容】

- ・新たに設立した読書ボランティアグループ紹介
- ・読書ボランティア活動の感想
- ・特色ある読書ボランティアグループの活動事例
- ・児童生徒の優秀感想文の紹介

【発行部数・回数】9,500 部×2 回

【配布先】管内小中学校 P T A 及び関係機関等

## 5 成果

平成 16 年度から事業を開始し、昨年度は管内の全小中学校(27 校)に読書ボランティアグループが設立された。今年度は、中学校における読書ボランティアグループの設立を重点目標に事業推進をしており、10 月末現在で、管内 11 中学校中 5 校でボランティア立ち上げの動きが

ある。

また、ブロックごとに研修会を開催したことにより、読書ボランティアグループ相互の情報交換が図られ、グループ間の活動交流など活動の広がりが見られるようになった。さらに地域の読書ボランティアグループから読み聞かせの技術指導を受け、活動のスキルアップにつながった。



ボランティアによる本の修繕

## 6 今後の展望

2 年間の継続事業として実施した結果、管内の小中学校に読書活動を推進するボランティアグループが設立された。今後は、各ボランティアグループが各学校、地域に根ざした活動として継続されるように、学校・家庭・地域のさらなる連携と相互理解が大切である。

また、各グループ間の連携や活動交流、スキルアップが図られるような活動支援を行っていききたい。



北上管内の小中学校に対する、保護者や地域住民を中心とした読書ボランティアグループ設立の働きかけは、大きな力として小中学生の読書への興味を持つきっかけとなり、読書の広がりとなる素晴らしい取り組みと考えます。

読書ボランティアグループを支援する活動が継続されることを願います。

岩手県子どもの読書活動推進委員

土岐幸子

# 計画の進行状況を示す指標の動向について

## (1) 家庭

指標の名称「小・中・高校生の1か月の平均読書冊数及び読書者の割合」

小5・中2・高2の児童生徒一人当たりの一ヶ月平均読書冊数及び一ヶ月に1冊でも本を読んだ者の割合。  
(毎年10月の状況を11月に抽出調査)

| 対象    | 指標         |     | H15 | H16 | H17  | H18  | H19  |
|-------|------------|-----|-----|-----|------|------|------|
| 小学校5年 | ①平均読書冊数(冊) | 目標値 |     | 9.3 | 10.2 | 11.1 | 12.0 |
|       |            | 実績値 | 8.9 | 8.9 | 8.1  |      |      |
|       | ②読書者の割合(%) | 目標値 |     | 100 | 100  | 100  | 100  |
|       |            | 実績値 | 98  | 97  | 97   |      |      |
| 中学校2年 | ①平均読書冊数(冊) | 目標値 |     | 2.5 | 2.7  | 2.9  | 3.1  |
|       |            | 実績値 | 2.4 | 2.5 | 2.7  |      |      |
|       | ②読書者の割合(%) | 目標値 |     | 78  | 85   | 92   | 99   |
|       |            | 実績値 | 74  | 78  | 79   |      |      |
| 高校2年  | ①平均読書冊数(冊) | 目標値 |     | 1.4 | 1.5  | 1.6  | 1.7  |
|       |            | 実績値 | 1.3 | 1.6 | 1.7  |      |      |
|       | ②読書者の割合(%) | 目標値 |     | 54  | 59   | 64   | 69   |
|       |            | 実績値 | 51  | 50  | 54   |      |      |

◇平均読書冊数は中・高で目標値と同等か上回った。小学校については、前年度を下回った。

◇読書者は全校種で前年度と同等か上回ったものの、目標値に届いていない。

## (2) 学校

指標の名称「全校読書の割合」

県内の小・中・高校における全校読書への取り組み状況。(毎年8月に調査)

| 対象    | 指標         |     | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 |
|-------|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小学校5年 | 全校読書の割合(%) | 目標値 |     |     | 96  |     | 100 |
|       |            | 実績値 | 91  | 95  | 95  |     |     |
| 中学校2年 | 全校読書の割合(%) | 目標値 |     |     | 95  |     | 100 |
|       |            | 実績値 | 90  | 92  | 93  |     |     |
| 高校2年  | 全校読書の割合(%) | 目標値 |     |     | 64  |     | 67  |
|       |            | 実績値 | 61  | 44  | 53  |     |     |

◇全校読書については、小中は9割を超えているが、高等学校は目標を下回った。

## (3) 地域①

指標の名称「県民一人あたりの図書貸出冊数」

県内の公立図書館等の県民一人あたりに対する平均貸出冊数

(公立図書館等における総貸出冊数÷県人口)

「図書館・公民館図書室等実態調査」(県立図書館調査 毎年4月)による。

| 対象     | 指標      |     | H14  | H15  | H16  | H17  | H18 | H19  |
|--------|---------|-----|------|------|------|------|-----|------|
| 公立図書館等 | 貸出冊数(冊) | 目標値 |      | 3.75 |      | 4.05 |     | 4.51 |
|        |         | 実績値 | 3.56 | 3.82 | 3.84 |      |     |      |

◇前年度を上回ったが、伸びは鈍化している。

## (3) 地域②

指標の名称「教育振興運動における取り組み状況」

各実践区の「読書推進」テーマの取り組み状況。全実践区数に対する割合(%)

「教育振興運動実態調査」(毎年1月)による。

| 対象     | 指標        |     | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 |
|--------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 教振各実践区 | 取り組み状況(%) | 目標値 |     |     | 48  |     | 58  |
|        |           | 実績値 | 38  | 41  |     |     |     |

◇読書活動に取り組む実践区数の割合が上がった。

- ・小・中学校における朝読書などの全校一斉の取り組みが定着している。
- ・県民一人あたりの貸出冊数は伸びている。県民の読書に対する意識があがったことや、公立図書館の機能向上、ネットワークの充実が要因と思われる。
- ・読書者率については、学校での一斉読書の取り組みとともに、家庭での読書環境づくりや、親子で共に読書に取り組むことを奨励する等取り組みを進める必要がある。

表紙写真：奥州市立前沢小学校での読み聞かせ活動

---

平成 17 年度子どもの読書活動推進事業  
**『いわて子ども読書プラン』実践事例集**

発 行 平成 18 年 3 月

発行者 岩手県教育委員会  
〒 020 - 8570 盛岡市内丸 10 - 1

編 集 岩手県立生涯学習推進センター  
〒 025 - 0301 花巻市北湯口 2 - 82 - 13

印 刷 小松総合印刷株式会社  
〒 020 - 0827 盛岡市鉦屋町 15 - 4

---